

特定非営利活動法人
産学連携学会・定期総会

令和7年6月総会資料

【とき】 令和7年6月11日（水）
10:00～12:00

【ところ】 オンライン会議

プロメテウスの火
人類は火とそして知恵を授かり、
しかし未来を知る能力を失った。
代わりに得たのは、希望であった。
今、私たちは破壊と創造の火を燃やす。

特定非営利活動法人 産学連携学会

2025

令和7年6月定期総会 議事資料

1. 日時：令和7年6月11日（水） 10：00～12：00
2. 場所：オンライン会議
3. 出席者数：正会員総数 _____ 人のうち _____ 出席（うち表決委任者 _____ 人）
（定款 第26条 総会は、正会員総数の3分の1以上の出席がなければ開会することはできない）
4. 議長及び議事録署名人（2名）選任：
（定款 第25条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する）
議 長 _____
議事録署名人 _____
議事録署名人 _____
5. 開会：議長開会宣言
6. 議事：
 - 第1号議案： 令和6年度事業報告
 - 大会の開催：令和6年7月13日～14日の日程で第22回大会（愛媛大会）を愛媛大学南加記念ホール・共通講義棟Aにて開催した（参加者数219名、一般講演76件、ポスター発表1件、オーガナイズドセッション5件）
 - 学会誌の発行：学会誌「産学連携学」（電子版）第20巻第2号を令和6年7月に、第21巻第1号を令和6年12月に発行した
 - シンポジウムの開催：令和7年2月18日に「産学連携学会 2024年度シンポジウム」を東京科学大学鈴木章夫記念講堂にて開催した。今回はオンライン視聴ができるようにした。デジタル競争力を高めるためのIMS（イノベーション・マネジメントシステム）に焦点を当てて、本シンポジウムを開催した（会場参加者：113名、オンライン参加者：575名）
 - 海外学会との交流：令和6年10月17～18日に Ocean hall in KOLON Seacloud Hotel（韓国釜山）にて「第7回日韓ワークショップ」を開催した（参加者15名、発表9件）。査読付き予稿集とした
 - ニュースレターの発行：方向性が固まるまで休止
 - メールニュースの発行：第1331号～第1432号発行（102回）のメールニュースを全会員に提供した
 - 各支部活動
 - ・北海道支部：「東日本リエゾンカンファレンス」の開催（令和7年3月1日：北海道科学大学にて開催、東北・北関東支部との共催（参加者20名、発表8件）
 - ・東北・北関東支部：「東日本リエゾンカンファレンス」の開催（令和7年3月1日：北海道科学大学にて開催、北海道支部との共催）、「東北・北関東支部セ

ミナー」を地域活性学会東北・北関東支部との合同により「科学技術プロジェクトと地域産業力」をテーマに開催（令和6年8月29日：SS30（エスエスサーティ）8階第1会議室（仙台市）にて開催、参加者38名）

- ・中部・北陸支部：イグ・イノベーションコンテスト事業の検討、支部活動に関する検討
- ・関西・中四国支部：「第16回研究・事例発表会」の開催（令和6年12月2～3日：松江テルサ）（発表：22件、参加者：37名）
- ・九州支部：ネットワーク会議「PFAS 対策技術の問題点－半導体産業を例として－」の環境研究の動向」の開催（令和7年2月26日：オンライン開催、参加者82名）

○ 研究会活動

- ・オープンイノベーション研究会：シンポジウムの開催支援（令和7年2月18日）
- ・リサーチ・アドミニストレーション研究会：産学連携学会第22回大会オーガナイズドセッション「“外”を知って視野を広げてほしい研究支援業務」（令和6年7月14日：愛媛大学南加記念ホール）の開催
- ・地域社会実装研究会：「産学連携の効果的な活用－コーディネーターに着目して－」を開催（令和7年3月24日：オンライン、参加者20名）
- ・ESD研究会：研究会「産学連携から見た ESD の新たな地平」（令和7年3月1日：オンライン、参加者約30名）の開催、本研究会は2024年度をもって閉会
- ・行動経済学・社会システム研究会：産学連携学会第22回大会での発表「地域愛の醸成と合意形成に関する事例分析と考察」及び「地域社会における産学官連携コーディネートの実態調査」、研究会の成果として「産学連携におけるヒトの意思決定の変化の可視化に向けた検討」を学会誌に投稿、研究会会合6回（4月10日、5月9日、6月6日、9月13日、10月16日、12月2日：オンライン開催）、研究助成への申請
- ・日韓比較研究会：第6回日韓ワークショップを開催（令和6年10月17～18日：Ocean hall in KOLON Seacloud Hotel（韓国 釜山））
- ・イグ・イノベーションコンテスト（事業）研究会：事前研究として課題確認、提案収集方策等の整理・対応策整備を目指して事前のオペレーションズリサーチを行い、愛媛大会にて発表
- ・産学連携における知的財産権研究会（新規）：愛媛大会においてオーガナイズドセッションの開催を経て研究会を設置
- ・地域連携教育研究会：第5回研究会「みんなで創る地域SDGs教育」（令和6年7月25日：オンライン、参加者16名）、第6回研究会「人間の未来を変

える学校。神山まると高専の挑戦」(令和7年1月23日：オンライン、参加者25名)、第7回研究会「インターンシップの現在地と今後の可能性」(令和7年3月10日：オンライン、参加者16名)、産学連携学会第22回大会オーガナイズドセッション「地域連携教育の課題と苦悩―連携疲れに陥らないために―」(令和6年7月13日：愛媛大学共通講義棟)の開催

- 各種イベントや展示会での出展
 - ・「アグリビジネス創出フェア2024」への1dayブース出展(令和6年11月28日：東京ビッグサイト)
- 共催事業
 - ・該当なし
- 後援事業
 - ・「輸出管理 DAY for ACADEMIA 2024」(輸出管理 DAY for ACADEMIA 実行委員会主催、令和6年11月1日：東京理科大学)
 - ・「アグリビジネス創出フェア2024(農林水産省主催、令和6年11月26～28日：東京ビッグサイト)」
 - ・「第24回ビジネスフェア」(西武信用金庫主催、令和6年11月12日：渋谷ヒカリエ)
- 理事会開催：令和6年4月17日、令和6年6月10日、令和6年10月8日、令和7年1月21日(全4回)

第2号議案： 令和6年度決算報告(別紙資料-1・2・3・4・5)

第3号議案： 令和7年度事業計画

- 大会の開催 第23回大会(函館大会)を6月19日～20日に開催
- 学会誌の発行「産学連携学」を年2回発行(電子版)
- 学会誌投稿論文のサポートを開始
- 政策研究・交流委員会を新たに設置し産学連携を所掌する省庁との関係と政策情報の会員向け発信の強化
- テキスト改訂委員会を新たに設置し産学連携学入門の改訂新版の編集
- 広報委員会を強化し学会HPをリニューアルするなどの会員向け情報機能強化
- メールニュース(随時)の発行
- 第8回日韓ワークショップを群馬県渋川市にて開催(10月16日～17日)
- 国際比較研究委員会を新たに設置し、韓国産学協同学会との交流、他学会との連携交流や研究会活動を通じて国際比較研究の強化
- 旧共同研究センター年報の電子アーカイブを会員が閲覧できるように提供
- 各支部活動

- ・北海道支部：東北・北関東支部と連携した東日本リエゾンカンファレンスを開催、産学官連携交流のためのリエゾン交流セミナー等の開催、支部 HP 運用
- ・東北・北関東支部：北海道支部と連携した東日本リエゾンカンファレンスを開催（岩手県八幡平市 7 月 4 日～5 日）、地域活性学会と連携したシンポジウムを秋季に実施予定
- ・中部・北陸支部：イグ・イノベーションコンテスト事業の検討、研究会の開催（令和 7 年 12 月頃開催予定）、地域課題検討会（年 4 回程度 オンライン開催）、幹事会開催（年 2 回 研究会、検討会に合わせて）
- ・関西・中四国支部：令和 7 年 1 2 月頃に第 1 7 回研究・事例発表会を開催する予定（場所：岡山市）に加え、幹事会（令和 7 年 5 月、1 0 月、1 2 月、令和 8 年 3 月）の開催を予定
- ・九州支部：産学連携ネットワーク会議でセミナー（特に九州で注目を集め続けている半導体産業との連携手法や新たに生じる地域課題を題材として企画）を開催および幹事会の開催を予定

○ 研究会活動

- ・オープンイノベーション研究会：シンポジウムの検討
- ・リサーチ・アドミニストレーション研究会：全国大会におけるオーガナイズドセッション（令和 7 年 6 月）および研究会（令和 7 年 1 2 月、もしくは令和 8 年 2 月頃：オンライン）を開催予定、研究会幹事会の開催
- ・地域社会実装研究会：「オープンイノベーション」「地域資源活用認定制度」をテーマとして研究会（3 回程度）の開催
- ・行動経済学・社会システム研究会：月例会合の開催（オンライン）、地域産学官連携事業におけるキーパーソンと主要なステークホルダーや大学等との人的ネットワークの実態調査結果をもとに、人を中心としたコーディネートモデルとして理論モデルの構築を図り、その成果を学会、論文等で公表予定
- ・日韓比較研究会：韓国産学協力学会とメール等による連携強化、日韓ワークショップの開催支援（10 月 16 日～17 日 群馬県渋川市）
- ・イグ・イノベーションコンテスト（事業）研究会：函館大会オーガナイズドセッション「イグイノベーションコンテスト IIC 研究」を中部・北陸支部と合同で開催、イグ・イノベーションコンテスト事業の実施に向けた検討
- ・産学連携における知的財産権研究会（新規）：函館大会オーガナイズドセッション「知的財産権・知財専門委員制度とビジネスコート どう捉え応援するか」の開催、研究会の開催
- ・地域連携教育研究会：「企業を核とした大学と地域との連携の実際」をテーマに研究会（3 回：オンライン）の開催、函館大会にてオーガナイズドセッションの開催

○ 各種イベントや展示会での出展

第4号議案： 令和7年度事業予算計画（別紙資料－6）

第5号議案： 役員改選

任期満了（令和7年6月30日）に伴い、以下の通り役員を改選する。

会 長：小野浩幸（山形大学）

副会長：伊藤慎一（秋田大学）、菅万希子（関西医療大学）

永冨太一（香川大学）

理 事：秋丸國廣（愛媛大学）、飯田香緒里（東京科学大学）、石塚悟史（高知大学）

伊藤正実（群馬大学）、内島典子（北見工業大学）、緒方智成（熊本大学）、

小竹暢隆（ヒューマンウェア・ネットワーク推進機構）、

北村寿宏（島根大学）、

宜保友理子（(株)慶應イノベーション・イニシアティブ）、

木村尚仁（北海道科学大学）、木村雅和（静岡理工科大学）、

杉岡秀紀（福知山公立大学）、殿岡裕樹（琉球大学）、

中田泰子（北陸先端科学技術大学院大学）、西山英作（東北経済連合会）

馬場大輔（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）、

馬場智巖（学園前法律事務所）、福田寛（北海道大学）、

山下篤也（国立研究開発法人科学技術振興機構）、吉用武史（高知大学）

監 事：川名優孝（東海大学）、矢野卓真（名古屋工業大学）

事務局長：伊藤慎一（秋田大学）

第6号議案： 定款の変更（別紙資料－7）

第7号議案： 令和7年度表彰者（別紙資料－8）

7. 閉会：議長閉会宣言

議長解任

【令和6年度役員】（令和7年6月11日時点）

会 長：石塚悟史（高知大学）

副会長：飯田香緒里（東京科学大学）、伊藤慎一（秋田大学）、緒方智成（熊本大学）、北村

寿宏（島根大学）、菅万希子（関西医療大学）

理 事：秋丸國廣（愛媛大学）、内島典子（北見工業大学）、江田英雄（広島工業大学）、小野

浩幸（山形大学）、川名優孝（東海大学）、宜保友理子（(株)慶應イノベーション・イニシ

アティブ)、木村尚仁(北海道科学大学)、殿岡裕樹(琉球大学)、中田泰子(北陸先端科学技術大学院大学)、永富太一(香川大学)、J. Radhakrishnan Nair (P&G イノベーション合同会社)、馬場大輔(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)、馬場智巖(学園前法律事務所)、福田覚(北海道大学)、松本毅((一社) Japan Innovation Network)、山下篤也(国立研究開発法人科学技術振興機構)、矢野卓真(名古屋工業大学)、吉用武史(高知大学)

会長、副会長を加え24名

監事：木村雅和(静岡大学・静岡理工科大学)、林聖子(亜細亜大学)

理事 24名

監事 2名

事務局長：飯田香緒里(東京科学大学)

2024年度 活動計算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 産学連携学会

(単位：円)

科	目	金額	小計・合計
【A】	経常収益		
1	受取会費		4,538,800
	入会金	146,000	
	年会費	4,392,800	
2	受取寄附金		520,000
	受取寄附金	520,000	
3	受取助成金等		636,100
	雑収入	636,100	
4	事業収益		3,118,000
	研究事業収益	1,875,000	
	啓発事業収益	582,500	
	講演・研修事業収益	660,500	
5	その他の収益		2,451
	受取利息	2,451	
	経常収益計		8,815,351
【B】	経常費用		
1	事業費		
	(1) 人件費		603,623
	謝金	359,123	
	雑給	244,500	
	(2) その他経費		4,389,979
	消耗品費	72,788	
	リース料	7,590	
	旅費交通費	300,691	
	通信費	42,590	
	支払手数料	1,496,758	
	会議費	107,975	
	外注費	479,160	
	印刷費	835,186	
	会場費	98,830	
	情報交換会費	948,411	
	事業費計		4,993,602
2	管理費		
	(1) 人件費		0
	(2) その他経費		3,575,471
	租税公課	600	
	減価償却費	13,620	
	通信費	306,927	
	支払手数料	160,260	
	外注費	3,094,064	
	管理費計		3,575,471
	経常費用計		8,569,073
	当期経常増減額【A】－【B】・・・①		246,278
【C】	経常外収益		
	固定資産売却益		
	過年度損益修正益		
	経常外収益計		0
【D】	経常外費用		
	固定資産売却損		
	災害損失		
	過年度損益修正損		
	経常外費用計		0
	当期経常外増減額【C】－【D】・・・②		0
	税引前当期正味財産増減額①+②・・・③		246,278
	法人税、住民税及び事業税・・・④		
	前期繰越正味財産額・・・⑤		4,461,026
	次期繰越正味財産額③－④+⑤		4,707,304

2024年度 貸借対照表

特定非営利活動法人 産学連携学会

(単位:円)

科	目	金額	小計・合計
【A】	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金	4,626,780	
	未収金	561,000	
	仮払金	500,000	
	流動資産合計・・・①		5,687,780
2	固定資産		
	(1)有形固定資産		
	(2)無形固定資産 商標権	27,240	
	(3)投資その他の資産 差入元入金	140,000	
	固定資産合計・・・②		167,240
【A】	資産合計 ①+②		5,855,020
【B-1】	負債の部		
1	流動負債		
	未払金	1,015,716	
	前受金	132,000	
	流動負債合計・・・③		1,147,716
2	固定負債		
	固定負債合計・・・④		
	負債合計 ③+④		1,147,716
【B-2】	正味財産の部		
	前期繰越正味財産額	4,461,026	
	当期正味財産増減額	246,278	
	正味財産合計		4,707,304
【B】	負債及び正味財産合計 【B-1】+【B-2】		5,855,020

監査報告書

特定非営利活動法人産学連携学会の令和6年度事業報告及び収支決算の状況を監査しましたところ、適正に処理されていることを認めます。

令和7年5月30日

特定非営利活動法人 産学連携学会

監事

林 聖子 

特定非営利活動法人 産学連携学会

監事

木村 雅和 

R7年度「特定非営利活動に係る事業会計」予算書

R7年4月1日からR8年3月31日まで

特定非営利活動法人 産学連携学会

科目		金額 (単位：円)		
収入				
1. 会費収入				
	会費	4,400,000		
	入会金	150,000	4,550,000	
2. 事業収入				
	研究事業	3,000,000		
	啓発事業	600,000		
	講演事業	600,000	4,200,000	
当期収入合計 (A)				8,750,000
支出				
事業費				
	研究事業	3,500,000		
	啓発事業	3,500,000		
	講演事業	539,000	7,539,000	
管理費				
	事務局委託料	3,090,000		
	通信費	320,000		
	支払手数料	120,000		
	減価償却	20,000	3,550,000	
当期支出合計 (B)				11,089,000
当期収支差額 (A) - (B)				- 2,339,000
前期繰越収支差額 (C)				4,707,304
次期繰越収支差額 (A) - (B) + (C)				2,368,304

第 5 号議案

定款の一部変更

新	旧
第 13 条 この法人に、次の役員を置く。 (1) 理事 9 人以上 <u>30</u> 人以内	第 13 条 この法人に、次の役員を置く。 (1) 理事 9 人以上 <u>24</u> 人以内

提案理由

学会活動の充実を図るため理事数の上限を引き上げる。

【業績賞】

1. 表彰対象者

牧野 暁世（鹿児島大学 客員教授、現東海学園大学 准教授）

村上 加奈子（鹿児島大学 教授）

井立田 剛（鹿児島大学 特任専門員）

2. 推薦理由

(1) 表彰する意義

・2016年から調査・研究を開始し、「かごんまの色®」を開発してきた。これは、鹿児島県という地域ならではの地域資源、例えば、特産品、景観、伝統、暮らし等を考慮したさまざまな資源を抽出し、これら地域資源に基づく地域らしい色（ローカルアイデンティティカラー）を住民投票により選定した、鹿児島県らしさを色で表現したカラーセット 18色の総称である。また、地域資源に由来する色彩及び色名（「きばいやんせ色」、「きんこうわん色」等）、様々なデザインに活用可能な色彩値で構成し、「かごんまの色®」を通じた地域文化への理解、郷土愛の醸成を意図して設計し、地域共創による成果として完成している。

・そして、「かごんまの色」は、鹿児島県内外の民間企業や自治体などとともに共同で研究開発し、新たな観光魅力作りや地域商品開発、地域 PR のため、特産品、印刷物、ウェブサイト、建物内装、食品パッケージや日用品等、さまざまな領域において活用されており、活用事例は2025年4月末時点で計16件に上る。また、地域住民の参画は延べ2300人以上、メディア掲載回数42件等、社会への波及効果も高い。なお、「かごんまの色®」の詳細は、パンフレットや鹿児島大学のウェブサイトで公開して紹介し、大学上げての広報活動に取り組んでいる。

・また、「かごんまの色®」は、登録商標として鹿児島大学が保有しており、利用の際には利用希望者と商標及び著作権使用許諾契約を締結し管理することにより、ブランドの維持及び推進を図っている。

(2) 社会への波及効果

・「かごんまの色®」は、上述のとおり様々な領域で活用されているが、例えば、亀崎染工(有)との共同研究により開発した商品 あづまバッグは「2019 かごしまの新特産品コンクール」において鹿児島県知事賞（工芸・生活用品部門）を受賞（2019年）、三井ホーム鹿児島(株)との共同研究により開発した住宅商品は「第23回環境色彩コンペティション グッド・ペインティング・カラー」において最優秀賞（内装部門）を受賞（2020年）した。これらの成果が認められ、公益財団法人 かぎん文化財団による「2021年度 かぎん文化財団賞」を受賞し、さらに、2020年度には「かごしま発イノベーション創出支援事業（鹿児島県）」において、産学官共同研究プロジェクトとして「かごんまの色®」を活用した大島紬商品開発を行う等、地域協働の社会実装により、地域文化の新たな魅力の発掘につながっている。最近では、鹿児島県広報誌（ハイパーリンクは令和4年夏号を引用） グラフかごしまの裏表紙（2023～2025

年)、始良市が建設した新庁舎(広報あいら第254号のp.10下段参照)等にも活用された。研究成果は国内学会のみならず国際学会(韓国、台湾)でも発表する等、本取組による鹿児島の魅力が鹿児島県の各所のみならず、広く国内外に向けて発信している。

加えて、新たな取り組みとして、宇宿商店街(鹿児島県鹿児島市)における市民協働の地域の色探しワークショップ(2024年度;YS市庭コミュニティー財団助成金2024の助成に基づく)、いちき串木野市における高校、民間企業、大学協働の地域資源に由来する色彩に関する開発研究(2025年度~)を実施中である等、「かごんまの色®」の開発スキームを活用し、各地域住民との連携を通して、色彩による地域アイデンティティの可視化・にぎわいづくりにつなげる活動を展開中である。以上のように、色彩学の研究成果(牧野)、商標の管理活用(村上)、地域コミュニティとの連携(井立田)による取り組みは、他のモデルとなる先端的な産学連携活動であり、優れた業績を上げているため、業績賞に推薦する。

【論文賞】

1. 表彰対象者

伊藤 正実(群馬大学)

2. 対象論文:

技術のみなし輸出に関する法令改定の研究教育活動に対する影響の評価

—アンケート調査結果とその内容に関する考察—

(産学連携学 2024年20巻2号, p21-32, 2024年8月公開)

3. 推薦理由

産学連携や研究推進に携わる実務者は常に自機関と他機関との橋渡しに尽力し、そうした活動が国境を越えた連携に結びつくこともしばしばである。一言で「国際連携支援」と呼ばれる活動の中身も、研究者同士の自由で学術的な交流から契約を交わしての厳密なものまで幅広い。そこには実務者の様々なスキルや経験、知識が活かされていることも多くの人たちが実感しているところであろう。

こうした国際連携活動や国際連携支援活動には、しかしながら、安全保障輸出管理や経済安全保障といった規制の網が掛けられており、国際的な情勢の変化に応じて大学等の学術機関も厳密かつ多岐に渡る対応が求められるようになってきた。本論文はこうした現状を踏まえ、自然科学系の部局を有する大学213校へのアンケート調査を行い、その結果を考察したものである。複雑に絡み合った規制の事項を丁寧にアンケート調査項目に落とし込み、得られた回答をこれまでの規制をめぐる経緯を交えて詳細に読み解き、産学連携の現場で生じている課題を生々しく考察した、時宜を得た論文である。本論文について、「本学会論文集に投稿した論文等が特に優秀であり、もって産学連携活動全般に貢献した」という推薦基準を満たしていると判断し、学術誌委員会から論文賞の候補として推薦するものである。